第22期　事業報告書

平成13年4月1日〜平成14年3月31日
（連結ベース）

FANCL
株式会社ファンケル

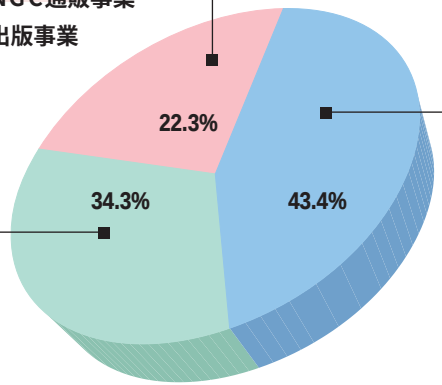
ファンケルグループの事業内容

その他事業

- 発芽玄米事業
- 青汁事業
- 快適生活事業
- NGC通販事業
- 出版事業

化粧品関連事業

- ファンケル化粧品
  ［肌アレルギーを起こすおそれのある成分を含まない化粧品］
- アテニア化粧品
  ［高品質かつ低価格の化粧品］



健康食品関連事業

- 健康補助食品
  ［高品質・国際標準価格を実現した健康食品］
- 美容補助食品
  ［体の中から美しさに働きかける健康食品］

contents

ファンケルグループの事業内容…… 1
連結決算ハイライト…… 1
株主のみなさまへ…… 2
化粧品関連事業…… 4
健康食品関連事業…… 6
その他事業…… 8
トピックス……10
連結決算の状況……12
単独決算の状況……15
業績（単独）の推移……16
株式の状況……17
役員……17

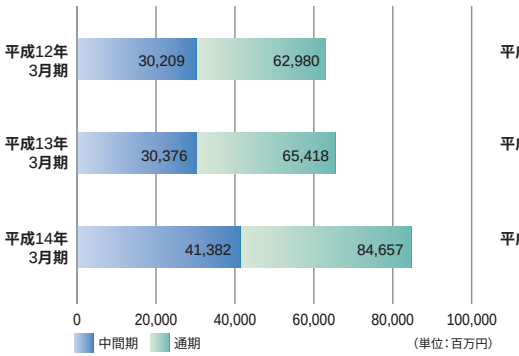
連結決算ハイライト

（単位：百万円）

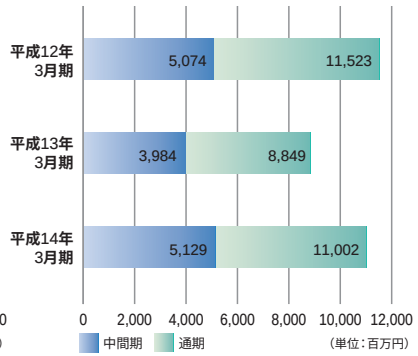
	当　期	対前期
売上高	84,657	129.4%
化粧品関連事業	36,748	103.0%
健康食品関連事業	28,995	114.1%
その他事業	18,913	435.7%
経常利益	11,002	124.3%
当期純利益	5,995	123.2%
1株当たり当期純利益（円）	307.55	123.1%
総資産	79,026	104.7%
株主資本	64,718	108.8%

注）当期より株式会社エヌ・ジー・シーおよび株式会社ファンケル発芽玄米が経営成績上連結の対象となりました。

売上高



経常利益



株主のみなさまへ

ファンケルグループ代表
池森 賢二

企業理念

世の中の不安や不満などの“不”を解消すること

ファンケルはこれからも世の中の“不”の解消に挑戦します
お客さまの笑顔 それがファンケルの原動力です

当期の業績について

株主のみなさまには日頃から格別のご支援ならびにご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。当期（平成13年4月～平成14年3月）の連結決算についてファンケルグループ代表池森賢二より、ご報告申し上げます。

当期の売上高は846億円（前期比29.4%増）、経常利益は110億円（前期比24.3%増）、当期純利益は59億円（前期比23.2%増）と増収増益になりました。各事業別にみましても化粧品、健康食品、その他ともに前期を上回ることができました。とりわけ発芽玄米事業は、下期は売上において計画値を達成することができ、確かな手応えを感じることができました。しかし、青汁事業につきましては当初の計画を達成できず次期に課題を残しました。

次期の施策

当社の売上および利益確保の源泉は化粧品関連事業と健康食品関連事業にあります。次期につきましては、化粧品関連事業を成長軌道に戻し、健康食品関連事業はリーディングカンパニーとして事業基盤をより強固にしてまいります。そのために研究に裏打ちされた製品開発と、美容と健康を身体の内（健康食品）と外（化粧品）から提唱する、内外美容理論に基づいた事業展開を推進いたします。具体的には化粧品のラインナップにサプリメントを加えた新製品「FENATTY（フェナティ）」を3月から、「Evanté（エヴァンテ）」を4月から発売いたしました。また通信販売の情報誌「エスポワール」を下期までに抜本的に見直します。さらにはローソンでのコーナー展開を7月よりスタートさせます。新しいコーナーは「FENATTY（フェナティ）」に美容関連の健康食品15品目を加えたものです。この試みは業界でも初めてのものとなります。そして直営店舗の「ファンケルハウス」「元気ステーション」、当期より実験展開を始めた健康食品の小型店舗「元気ネット」においても商品構成や売場作り、サービス面で内外美容の考えに基づいた展開をしてまいります。一方、健康食品は世界で初の植物由来によるカプセルの開発に成功し、5月より製品に採用することで、他社との差別化を図ってまいります。

将来の事業の柱である発芽玄米事業は、5月に長野工場が稼動を始めたことにより、これまでの香川工場（香川県）とあわせて2工場体制となり、生産力も5倍の日産100トン（24時間フル稼動の場合）規模となります。この生産力を背景に積極的に製品開発を推進することによって売上を倍増させ、利益の出せる事業といたします。青汁事業は、これまでの通信販売と卸販売に加えて訪問販売を新たに開始し、販売チャネルの多様化を図ることで20億円の売上を目標とします。

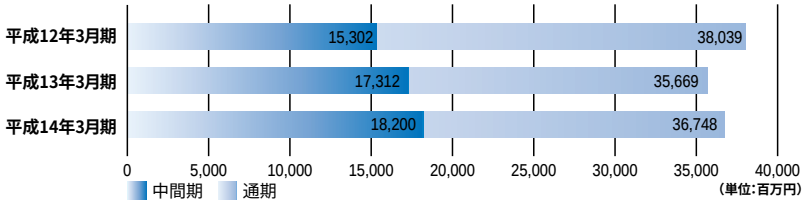
当社は株式の流通の活性化を目的として、平成14年3月31日現在の株主のみなさまに対し、1:1.2の割合で株式分割を実施いたしました。今後とも、投資者層の拡大と当社株式の流通性向上を目的として、投資単位の引き下げに取り組んでまいります。

一方、経営環境の変化に対応し、機動的な資本政策の遂行を可能とすべく、普通株式150万株、取得価額の総額50億円を上限として自己株式を取得することといたしました。

以上、株主のみなさまにおかれましては、当グループの経営姿勢をご理解いただき、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

化粧品関連事業

売上高



「フェナティシリーズ」誕生

平成14年3月、20代から30代前半の肌の悩みを解消するスキンケアブランド、「FENATTY（フェナティ）」を発売いたしました。長年の研究の成果により防腐剤無添加でありながら、当社従来商品の3倍の30ml容量を実現し、さらに使いやすくなりました。また、肌へのやさしさも今まで以上に追求し、デリケートになってしまった肌を健康な状態へと導きながら、乾燥や小ジワなどの初期老化も予防します。さらに、ファンケルならではの「内外美容」という発想からサプリメントを加え、カラダの内側からも美しくなろうとする力を強力にサポートし、使い続けるうちに、健やかでうるおいに満ちた理想的な肌へと導く新商品シリーズです。

アテニア　メイクアップ商品リニューアル

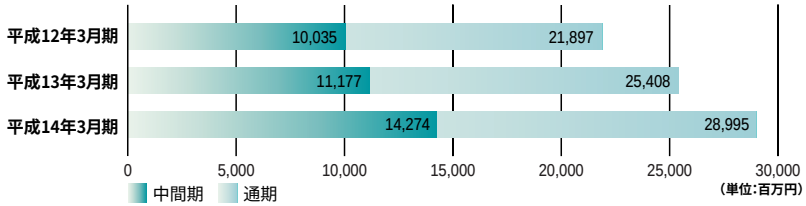
平成14年3月、2年におよぶ開発期間を経て、アテニアのメイクアップ商品を全面リニューアルいたしました。「高品質・低価格」というアテニアの原点をさらに追求し、機能をより充実させ、使いやすさへの配慮をより高めながらも、お客様に喜ばれる価格設定を実現しました。

「マイルドクレンジングオイル」リニューアル

発売以来ご好評をいただいている「マイルドクレンジングオイル」が平成14年3月にリニューアル新発売されました。落ちにくいメークも、すばやくスッキリ洗い流せます。新成分、ローズヒップ油を配合し、デリケートな肌もやさしく、ふっくらやわらかに洗い上げます。ポンプ式で使いやすく、量も増えて、お求めやすい値段になりました。

健康食品関連事業

売上高



「元気net.（元気ネット）学芸大学店」オープン

平成14年2月、サプリメントショップの新業態「元気ネット」の1号店として「学芸大学店」をオープンいたしました。「元気ネット」は、将来的にローコストで運営できるフランチャイズ展開を見据えたサプリメントのミニショップです。元気ステーションでは展開できなかった、デリバリーサービスやポスティングによる来店促進等、お客様の日常生活に密着したサービスの提供と積極的な顧客獲得施策の実施が可能になります。今後も直営による店舗展開を数箇所で行い実験を重ねてまいります。

サポートシリーズラインナップ充実

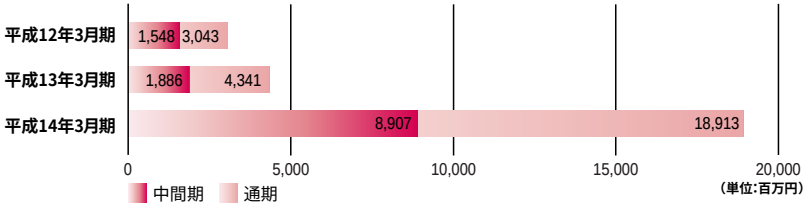
人気の健康サポートシリーズに「さらさらサポート」「快眠サポート」が仲間入りしました。「さらさらサポート」は最近注目の納豆菌培養エキスなどの成分を配合。コレステロールや脂肪の多い食事などによって「ドロドロ」になった血液を「さらさら」にします。睡眠に役立つハーブとして欧米で注目されている「バレリアン」を主成分とした「快眠サポート」は、深く心地よい眠りを誘い、心と身体の疲れを癒します。

「速溶（そくよう）ビタミンB＆C」新発売

平成14年2月、口のなかでスッと溶け、かまずにビタミン補給ができる「速溶（そくよう）ビタミンB&C」を新発売しました。砂糖は使用せず、虫歯になりにくい低カロリーの甘味料を使用。飲み込むことやかむことが苦手なお年寄りやお子様でも、1日6粒で、8種類のビタミンB群とビタミンCの1日の栄養所要量を摂取できます。

その他事業

売上高



発芽玄米事業
「ファンケル発芽米」シリーズの新商品投入

「ファンケル発芽米」シリーズに、新商品が登場し、より毎日の食生活に取り入れやすくなりました。平成13年10月に香ばしく栄養満点な「発芽米<きりもち>」を、平成14年1月には小麦粉感覚で調理に最適な「発芽米<こな> ホワイト」、飲み物に混ぜて使用する「発芽米<こな>焙煎ブラウン」をそれぞれ発売しました。さらに3月より「発芽米<味噌>」の販売も開始しております。

青汁事業
青汁粉末タイプ発売

青汁のにおいや味への「不満」を解消するために生まれた「ファンケル青汁」。平成13年9月には、従来の冷凍タイプに続き、粉末タイプを新発売しました。場所を選ばず飲むことができるようになったことに加え、料理にも簡単に利用でき、よりおいしく手軽に緑黄色野菜の栄養を補給できます。

快適生活事業
快適肌着のこだわり

「ファンケル快適肌着」は、素材や設計にこだわり、着る人の理想に限りなく近い肌着作りを目指しています。筋肉の付き方や動きといった身体構造に基づく独自の設計により、無理なく美しいボディラインをうみだします。また、縫糸1本にまでシルク成分セリシンでスキンケア加工を施し、敏感肌の方でも安心して着ていただけるよう配慮いたしました。

NGC通販事業

今期より新たに経営成績上連結対象の子会社となった株式会社エヌ・ジー・シーによる通信販売事業は、室内を均一に暖める遠赤外線暖房器「サンルーム」や、花壇等からでる植物のゴミを粉砕しチップにする園芸用粉砕器「ガーデンシュレッダー」などの販売が順調に推移しました。

トピックス

TOPICS

銀座ビル着工

平成13年10月、銀座ビルの地鎮祭が行われ、平成15年4月オープンに向けて建設がスタートしました。銀座ビルのコンセプトは①日常生活のエネルギーを得ることができる場②心と体がリフレッシュ、リラックスできる場③美しくなる、健康になるための新たな発見と体験ができる場とし、ビル名称を「FANCL SQUARE:ファンケル スクエア」とします。同ビルにおいては化粧品・健康食品など既存事業のほか新規事業も展開していく計画で、質の高いサービス、新たな商品提案を行うことによりブランドイメージの向上を図ります。

〈イメージ図〉

本社機能移転

横浜市中区に不動産信託方式により事務所ビルを取得し、平成13年12月に本社機能を横浜市栄区から移転させました。営業部門も平成14年中に移転する計画となっており、今後は管理部門と営業部門の連携強化による業務効率の向上を図ります。

発芽玄米事業、軌道に乗る

平成13年4月、ドライタイプの「ファンケル発芽米」を発売し、発芽玄米事業は順調に拡大しています。柔らかく甘みもあり、ビタミン、ミネラル、植物繊維などが豊富で健康維持に役立つ発芽玄米は米穀・食品業界で注目を浴びており、白米と混ぜて食べるだけでなく味噌、飲料等の食品向け素材としての用途も広がっています。7月にオンエアされた細川護熙元首相を起用したTVCFは話題を集め、また12月には第31回食品産業技術功労賞（商品部門）、モノ・マガジン2001スーパーグッズ・オブ・ザ・イヤー銅賞を受賞するなど認知度は急速に高まっています。一方需要の高まりに応えるため、株式会社ファンケル発芽玄米は長野県東部町に新工場を建設し、生産能力を大幅に増強いたしました。

連結決算の状況

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前期（平成13年3月31日現在）金額	当期（平成14年3月31日現在）金額
（資産の部）		
流動資産	41,701	43,561
現金及び預金	16,224	19,804
受取手形及び売掛金	7,936	8,298
有価証券	11,723	7,731
たな卸資産	4,758	5,483
その他の流動資産	1,057	2,244
固定資産	33,780	35,464
有形固定資産	23,056	24,053
建物及び構築物	9,244	9,836
その他の有形固定資産	13,812	14,217
無形固定資産	3,048	2,354
投資その他の資産	7,674	9,055
投資有価証券	1,398	1,183
長期貸付金	1,584	1,122
保証金	2,397	2,349
その他の投資その他の資産	2,293	4,400
資産合計	75,481	79,026
（負債の部）		
流動負債	13,244	12,479
支払手形及び買掛金	3,859	3,638
短期借入金	1,170	—
その他の流動負債	8,215	8,841
固定負債	2,754	1,828
長期借入金	1,092	350
その他の固定負債	1,661	1,478
負債合計	15,999	14,308
（資本の部）		
資本金	10,795	10,795
資本準備金	11,706	11,706
連結剰余金	36,977	42,245
その他有価証券評価差額金	5	△18
自己株式	△2	△9
資本合計	59,482	64,718
負債・資本合計	75,481	79,026

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	前期（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで）金額	当期（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで）金額	伸び率
			%
売上高	65,418	84,657	29.4
売上原価	18,383	27,975	
売上総利益	47,034	56,682	
広告宣伝費	8,895	10,212	
販売促進費	5,810	8,160	
荷造運賃	3,170	3,781	
通信費	2,892	2,800	
手数料	4,309	5,110	
給与手当	5,434	6,513	
減価償却費	1,371	1,388	
その他の販売費及び一般管理費	6,518	7,595	
販売費及び一般管理費	38,402	45,563	
営業利益	8,632	11,118	28.8
営業外収益	819	636	
営業外費用	601	753	
経常利益	8,849	11,002	24.3
特別利益	67	0	
特別損失	198	458	
税金等調整前当期純利益	8,718	10,544	20.9
法人税、住民税及び事業税	3,750	4,745	
法人税等調整額	100	△195	
当期純利益	4,867	5,995	23.2

連結決算の状況

連結剰余金計算書

（単位：百万円）

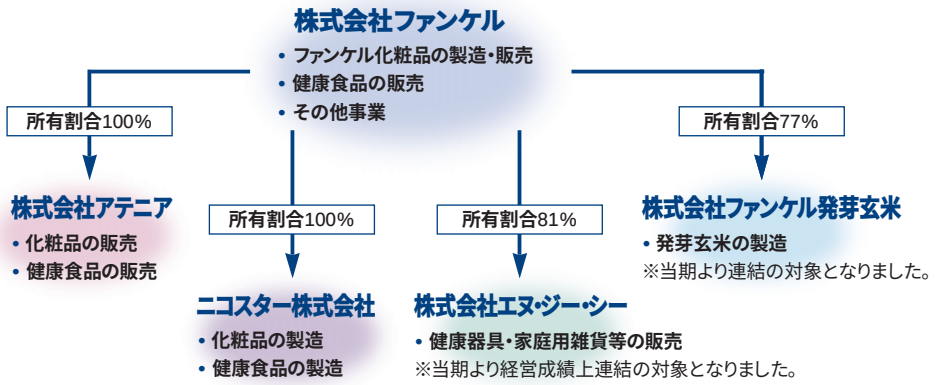
科目	前期（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで）	当期（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで）
連結剰余金期首残高	32,653	36,977
連結剰余金減少高		
連結子会社増加による剰余金減少高	—	3
連結子会社の第三者割当増資に伴う持分変動による減額	—	237
配当金	543	487
合計	543	727
当期純利益	4,867	5,995
連結剰余金期末残高	36,977	42,245

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	前期（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで）	当期（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで）
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー	6,083	7,425
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,838	△5,416
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,410	△2,456
Ⅳ現金及び現金同等物に係る換算差額	3	9
Ⅴ現金及び現金同等物の増加額	△161	△437
Ⅵ現金及び現金同等物期首残高	28,109	27,947
Ⅶ新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	25
Ⅷ現金及び現金同等物期末残高	27,947	27,535

連結の状況



単独決算の状況

貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前期（平成13年3月31日現在）	当期（平成14年3月31日現在）
（資産の部）		
流動資産	33,418	34,150
固定資産	30,276	32,995
有形固定資産	20,148	18,907
無形固定資産	1,541	1,245
投資その他の資産	8,586	12,842
資産合計	63,695	67,146
（負債の部）		
流動負債	8,789	8,865
固定負債	2,417	1,518
負債合計	11,206	10,384
（資本の部）		
資本金	10,795	10,795
資本準備金	11,706	11,706
利益準備金	243	267
その他の剰余金	29,738	34,021
その他有価証券評価差額金	5	△18
自己株式	—	△9
資本合計	52,488	56,762
負債・資本合計	63,695	67,146

損益計算書

（単位：百万円）

科目	前期（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで） 金額	当期（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで） 金額	伸び率
			%
売上高	58,824	66,302	12.7
売上原価	17,014	21,759	
売上総利益	41,809	44,543	
販売費及び一般管理費	34,075	36,088	
営業利益	7,733	8,455	9.3
営業外収益	1,040	861	
営業外費用	559	592	
経常利益	8,214	8,723	6.2
特別利益	61	—	
特別損失	183	456	
税引前当期純利益	8,092	8,266	2.2
法人税、住民税及び事業税	3,479	3,567	
法人税等調整額	89	△94	
当期純利益	4,523	4,794	6.0
前期繰越利益	383	370	
中間配当額	243	243	
中間利益準備金積立額	24	—	
当期未処分利益	4,638	4,921	

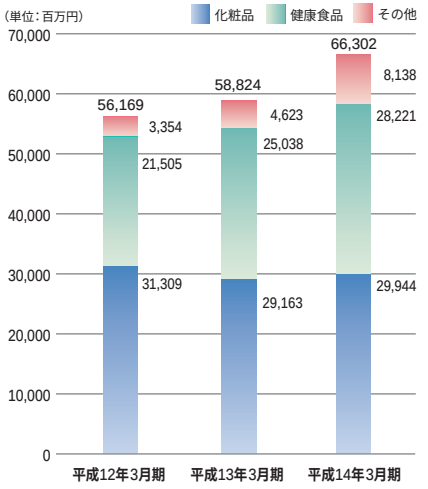
利益処分計算書

（単位：百万円）

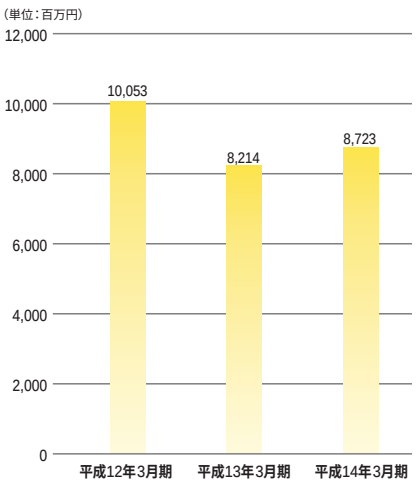
科目	前期（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで）	当期（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで）
当期未処分利益	4,638	4,921
利益処分額		
利益準備金	24	—
利益配当金	243	243
別途積立金	4,000	4,300
次期繰越利益	370	377

業績（単独）の推移

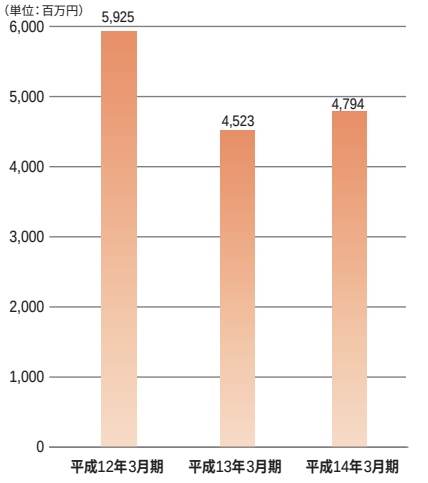
売上高



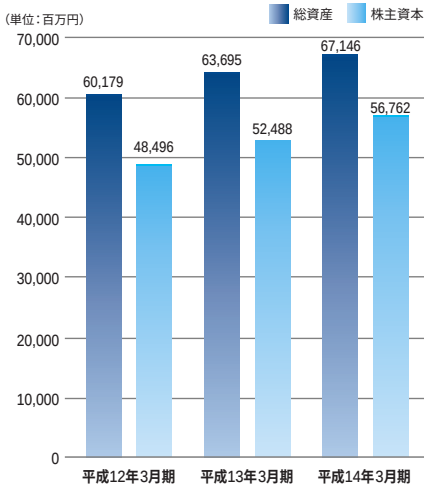
経常利益



当期純利益



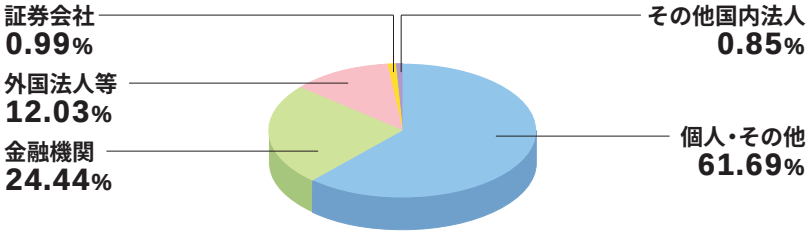
総資産および株主資本



株式の状況（平成14年3月31日）

会社が発行する株式の総数 ――――――77,946,000株
発行済株式の総数 ――――――――――― 19,493,500株
株主数 ――――――――――――――――――16,461名

株主構成比率



役員（平成14年6月16日）

代表取締役社長	池森賢二	常勤監査役	米田康弘
代表取締役専務	山本尚	常勤監査役	池田文子
代表取締役専務	田多井毅	監査役	小関勝紀
取締役副会長	池森政治	執行役員	石渡健一
常務取締役	國分孝夫	執行役員	石田隆男
常務取締役	成松義文	執行役員	与田尚久
取締役	松本克彦	執行役員	宮原修司
取締役	宮島和美	執行役員	小池政義
取締役	藤田紘一	執行役員	片瀬信郎
取締役	岡田隆吉	執行役員	須釜憲一

FANCL
株式会社ファンケル

［本　　店］〒247-8577 横浜市栄区飯島町109-1
［本社事務所］〒231-8528 横浜市中区山下町89-1
TEL.045（226）1200（代表）

当社に関する情報についてはホームページでもご覧いただけます。
http://www.fancl.co.jp

株主メモ

決算期日　――― 3月31日
定時株主総会　― 6月下旬
基準日　――― 3月31日
1単元の株式数 ― 100株
名義書換代理人　東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所　東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社
証券代行部　TEL.03-5683-5111
同取次所　――― UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
公告の方法――― 日本経済新聞に掲載

※名義書換代理人東洋信託銀行株式会社は、平成14年1月15日をもって、商号をUFJ信託銀行株式会社（登記上は、ユーエフジェイ信託銀行株式会社）に変更いたしました。

当社株式に関する事務手続き用紙（お届出の住所・姓名・印鑑等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等）のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話並びにインターネットにより24時間承っておりますので、ご利用ください。

☎（通話料無料）{ 0120-24-4479（本店証券代行部）
0120-68-4479（大阪支店証券代行部）

インターネットアドレス
http://www.ufjtrustbank.co.jp

環境に配慮して再生紙を使用しています。